保健・医療等体制

令和３年１１月８日（月）

内閣官房行政改革推進本部事務局

説明資料

背景・問題意識

◆我が国を襲った新型コロナウイルス感染症の感染拡大（いわゆるコロナ禍）は、新型コロナ感染者が増加するなかで、新型コロナ患者を受け入れるための病床の不足、それに伴う自宅・宿泊療養者の増加、保健所への対応業務の集中による逼迫等、我が国の保健・医療等体制における諸課題を浮かび上がらせた。

◆そうしたことを踏まえ、本テーマでは、感染再拡大に備えて、世界でも有数の病床数を抱える我が国において、なぜ新型コロナ病床の逼迫といったことが起こってしまったのかといった観点から、コロナ禍における我が国の保健・医療等体制についての検証と今後のあり方についてご議論いただきたい。

主な論点

●なぜ病床は逼迫してしまったのか。

・新型コロナ病床が確保できなかった要因　・公的病院等の病床確保についての課題と対策
・「幽霊病床」問題の課題と対策　・補助金のあり方　など

●非常時における保健・医療等体制のあり方について

・非常時における保健所の役割と体制のあり方　・自治体の事例
・非常時における医療機関の役割分担、連携・協力体制について（病院の規模等に応じた役割等）
・非常時における自宅・宿泊療養者への対応について
・非常時に備えた地域完結型の保健・医療等体制の必要性について　など

●新型コロナから得た教訓と課題克服のための取組みについて

・非常時に備えた平時の課題（医療資源の分散化、病床機能（高度急性期、急性期、回復期、慢性期）のあり方、集約化に向けた取組み等）
・非常時における国と地方のガバナンス・役割について　など